

平成 22 年度 学校教育の基本

一 浪合学校の教育

旧浪合村では教育立村を目指し、村の発展を人づくりに求め、村民の教育への思いを象徴する学校を平成元年に竣工した。自然にとけ込み、村民と子ども達が集える校舎、オープンスペース形式と教科教室型の斬新な教室、園児から児童・生徒までのオープンスクール形式の学校とした。平成 18 年に阿智村との合併で浪合村はなくなったが、今もその熱い思いを本校の教育は受け継いでいる。

小規模・小中併設校である本校では、少人数であることの利点や小・中連携をいかした教育を進めてきている。また子どもが今、何を感じ、何を考え、何を求めているかの事実を出発点とする「はじめに子どもありき」の理念の下、教育を推進してきた。

さらに自然環境をはじめとするさまざまな環境を生かし地域に根ざした教育を進めると共に、特別支援学校の子どもたち、国連インターナショナルスクールの子どもたちとの交流や東京学芸大学の学生との交流、地域の方々との交流、そして山村留学の子どもの受け入れなど多様な人とのかかわりの中で、広く社会に目を向け、社会性・自主性とともに関わり合いの心や心の育成に力を入れてきた。また浪合を愛おしむ心の育成にも重点がおかれてきた。

こうした本校の教育は地域住民の「浪合学校」という言葉に象徴される村民の学校づくり、心の拠り所としての学校、地域を開く浪合学校という考えと「3歳から15歳までのふれあい教育」という願いに支えられて今日に至っている。

平成 23 年度、中学校は阿智中学校に統合される。浪合小中学校としては本年度を最後として運営される。本校の大改革期の年度を迎え、中学校の閉校と新たな始まりを迎える小学校を考える大きな意義を持つ本年度の取り組みとなる。

二 学校目標

- 1 自分で考え 行えるひと
- 2 人のために 尽くせるひと
- 3 心と体を きたえるひと

三 指導・実践の重点

- 1 学習指導・教科指導（少人数・小中併設校の利点を生かす）
 - (1) 少人数を生かした授業展開の工夫（友や先生とのかかわりのある「学び合い」の授業）
 - (2) 校舎、教室の特色を活用した学習形態の工夫
 - (3) 新しい学習指導要領に基づく教育の推進（書くことや表現すること言語活動の重点化）
 - (4) 子どもの実態にたち、評価規準に基づいて子どもが生きる評価の実施。
 - (5) 小中学校間における連携の推進（子どもの実態把握や発展題材などでの連携）
 - (6) 「授業を見合う会」をいかした授業研究・教科研究の推進
 - (7) 学習習慣の定着を図り、基本的な指導を行う。
- 2 読書活動の充実
 - (1) 全校朝読書、読書の時間の充実
 - (2) 図書館の整備と充実（活字の森をさまよう心地よい空間づくり）
 - (3) 地域の方々による読み聞かせ会
- 3 心と体を鍛える活動
 - (1) 各種の活動を通して、何事にも粘り強く最後まで取り組む子の育成

- (2)作業・清掃・部活動・各種行事などあらゆる場面において心と体を鍛える機会とする
- 4 学級・児童生徒会活動
 - (1)話し合い活動を中心とする学級づくり
 - (2)友とのかかわりや集団での取り組みのよさを知る中で、自主性・主体性・社会性・自立心を育む児童会、生徒会活動の推進
- 5 学校環境を生かした教育の推進
 - (1)校舎愛護の心を育成し、清掃活動を通して美しい環境をつくる。
 - (2)学校環境・学習環境を自ら整え、感謝して使う心の醸成。
- 6 交流教育による社会性・自立心の育成
 - (1)飯田養護学校・国連インターナショナルスクール、学芸大学学生との交流を推進する。
 - (2)地域の方々・山村留学センターとの交流を深め、協力しながら地域の明日を担う子どもの育成を図る。
 - (3)村内の他小学校・中学校との交流をより進め、お互いの理解を深める。
- 7 地域と連携し、地域をいかした学習
 - (1)地域への奉仕・福祉活動をさらに進める。
 - (2)総合的な学習の時間・特別活動・教科学習等での地域とのかかわりや学習を行う。
 - (3)地域を担う子どもの育成のため地域行事への参加（村社祭・運動会・ほんやり様等）
 - (4)閉校にかかわり、地域と連携した取り組み、地域（浪合・阿智村）の学習を行う。
 - (5)地域への発信（学校HP、学校だより、学級通信等）の充実
- 8 生徒理解・生徒指導
 - (1)生徒理解の上に立ち、小中連携して9年間の子どもの育ちをみていく。
 - (2)子どもの一人一人の人格を尊重し、日常生活における人権教育を充実させる。
 - (3)保護者・小中・関係機関との連携を適に行い、多角的な視点で子どもの育ちを支援する。
 - (4)学校生活全般における基本的な学習・生活習慣を身につける指導を行う。
 - (5)発達障害・学習障害などの児童生徒についての理解を進め、理解を深める。
- 9 家庭生活・家庭学習の支援
 - (1)休日や帰宅後の生活を見直し、きまりよい生活、家族の一員である生活を支援する。
 - (2)家庭での学習を充実させるために保護者と連携して、個に応じた学習の定着を図る。

四 中学校閉校に向けて

- 1 地域の浪合学校に寄せる思いをふまえ、中学校閉校と小学校の独自の運営を構築する。
- 2 中学校では閉校と生徒が統合をスムーズに行われるよう交流学习を行う。
- 3 地域の方の願いや思いを理解し、共に閉校への諸活動を行う。
- 4 一年間を通して浪合を知る、阿智村を知る年度と考え、地域学習（歴史・地理・産業・文化等）を行う。

五 教職員としての意識

- 1 子どもが主体であり、全ての子に敬愛の心を持って指導と支援に取り組む
- 2 学校目標の具現に向けて、職員が心一つにして取り組む
- 3 共通理解に基づき、子どものために事に当たる
- 4 常に向上心を持ち、研修に励み、謙虚に自己を磨く
- 5 子どもと共に考え、子どもと共にいき、子どもと共に喜ぶ教師
- 6 地域を考え、地域と共に歩むことが浪合の子を育てる